

練馬区が目指すべき30年後の都市像について

練馬区の都市特性

人口の将来動向

- ・平成39年頃をピークに減少に転じるが、急激な減少はなく、30年後も現在とほぼ同じ規模の人口を維持
- ・一方で、人口構成が大きく変化し、30年後の高齢者人口比率は約21%から約27%となる見込み

みどりがあふれ農が活きるまち

- ・緑被率は 24.1% (23区中1位)
- ・農地面積は 約160ha (23区中1位)

環境と利便性が両立する良好な住宅都市

<住みやすいと感じるところ>



- ・第一種低層住居専用地域の割合は約58.5% (23区中2位)
- ・戸建住宅割合は 約28% (23区中2位)

都市インフラ整備の遅れ

- ・区北西部には鉄道空白地域が存在
- ・都市計画道路の整備率は約50% (都内平均以下)
- ・消防活動困難区域が区内全域に点在

今後の都市インフラの整備

都営地下鉄大江戸線の延伸・周辺のまちづくり

土支田駅(仮称)周辺・大泉学園町駅(仮称)周辺

外環の2などの都市計画道路の整備

沿道地区周辺

西武新宿線の立体化・駅周辺のまちづくり

上石神井駅周辺、武蔵関駅周辺

都市計画公園(練馬城址公園)の整備

練馬城址公園(豊島園)周辺 など

プレゼンテーションにおける主な視点

道路

- ・幹線道路ネットワークの整備 → 生活道路の安全性向上
→ 公共空間の活用
- ・幹線道路はグリーンインフラとして整備

交通

- ・きめ細かな公共交通の充実
- ・パーソナルな乗物の活用 → 道路の活用方法の新しい視点

環境

- ・拠点を重点とする環境への取り組み
- ・災害時のエネルギー対策との一体的な対応
- ・みどりや農地の環境への寄与

みどり

- ・みどりを量だけでなく、質として評価
- ・創出するみどりは愛着を育む機能として位置付け
- ・生態系を広域的な視点で考えみどりをネットワーク化
- ・みどりの効用を見える化し、受益者が支える仕組み

農地

- ・農地の保全・活用の意義 → 環境、景観、生活の質等
- ・若年層世帯を迎え入れる対策への解除生産緑地の活用

まちづくり

- ・超高齢化社会への対応
→ 高齢者の移動距離に配慮したまちづくり
- ・住宅都市の性能・地域の個性追求、付加価値向上
- ・都市空間や公共空間の複合的・総合的マネジメント
- ・拠点への公共・公益サービス施設の集約化
- ・横断的な相談機能の集約と適正配置
- ・コミュニティ形成における商店街の関わり

練馬区が目指す方向性において重要となる視点

住宅都市としての今後の可能性に着目し、次の視点を中心に方向性を具体化する。

- ◆ みどり・農の魅力を最大限に活かす
- ◆ あらゆる世代が生活利便性を享受できる
- ◆ 都市インフラを充実し、新たな発想で活用する

理想とする都市像
(目指す方向性)

個性豊かな駅周辺
のまちで多様な魅力
と生活の利便性を
享受できる都市

豊かなみどりを
備えた幹線道路が
安全・快適なまち
を支える都市

住宅と農地が共存
するまちの中で農の
魅力があふれる都市

豊かな自然の中で
多様な活動を楽しめ
る場所が広がる都市